

♪♪♪ いい歌、いい町、いい自然 ♪♪♪

No. 519

2005. DEC

広報

あかいけ

12

●特集

この町で生きる。

赤池で112年

日本最高齢者の皆川ヨ子さん(常福)
健康長寿日本一、112歳の笑顔。
来月1月4日は113歳の誕生日です。



健康

最近、疲れやすくなったな。
何か悪い病気かな...

自分が、大切な人が...
倒れたらどうなる。

介護

この町で生きる...

My life... in my town.

いつまでも幸せに生きていたい。
でもどうすればいい...

不安



この町が好き。

I love my town.

そんなあなたに読んでほしい。

いつまでも生きていたい...

いつまでもここに住んでいたい。

親がいる、子がいる、大切な人がいる。

愛する人がいる。

だけどイヤなことは考えたくない...

つぎることのない将来への不安。

介護に対する不安、

健康に対する不安、

あなたのそばにある 大きな安心でありたい。

総合保健施設コスモスが、この町に誕生しました。
診療所、健診センター、保健福祉センターなどを統合した
合理的な複合型施設が、今年4月から動き始めました。

「健診」をベースに疾病と介護予防をきめ細かくサポートする健康づくり。
住み慣れた自宅で穏やかに療養できる「在宅介護」の環境づくり。
いつまでも健やかに生きる「健康長寿」を目指したまちづくり。
これらを保健・医療・福祉の融合による
地域密着型の一貫したサービスで展開しています。

しかし、いまだに「施設に行ったことがない」
「どんな機能があるのか知らない」などの声があるのも確か。
コスモスへ行く、「一歩が踏み出せない」という人も少なくありません。
今回、コスモスの取り組みと果たす役割を
3人の「生きる姿」に迫りながら紹介し、
病気になるらない、寝たきりにならない
ライフスタイルを考えます。

この特集がコスモスに足を運ぶ足がかりになり、
安心できる施設を身近に感じながら
自分の健康は自分で守る
「セルフケア」の一歩を踏み出す
きっかけになればと思います。



第一部 助かる命があります「受けてください、健診」



「娘たちが支えてくれたおかげで今を生きています」と相部靖子さん(稲荷町) 思い出の手紙を胸に...

生きるとはこうしてなっていく。

「あれから13年...」。平成4年12月にがんの摘出手術を受けた相部靖子さん(64)。夫をがんで行った半年後、初めて受けたがん健診で自らの病状が発覚しました。術後、無事1年が過ぎたころ、一人娘の谷川陽子さんからもらった一通の手紙。家も近く、毎日のように行き来しているのに、めずらしく改まって手渡されたそうです。その手紙には、

忙しくてたまにきちかまで平凡な毎日を送ることができるとの感謝、たくさんの愛情を注いでくれた父への感謝、この世で一番尊敬する母への感謝の言葉が3枚に渡ってつづられていました。「本当に生きていてくれてありがとう」。要する人がすくそばで生きていくための「世への喜び」であふれた手紙でした。

あなたを愛する人、あなたを必要とする人がいます。
大切な人がいつもの場所において、元気で、笑顔でいてくれる。
そんな日常の幸せは健康によってもたらされます。
初期に自覚症状が少ないがんや生活習慣病は
先送りすると取り返しのつかないことになりかねません。
大切な人を失いたくないから...
受けてください、健診。
あなたの体は、あなただけのものではなく、
その命は、たった一つしかないのですから。



【相部靖子さんの宝物】手紙 My treasure Letter

クローズアップ

健診で発覚したがんを克服した
相部 靖子さん

自分の命を守るためには、受け身ではいけない。現実から目を背けてはいけない。「健診」クロスアップ

生きる13歳の喜び

相部 靖子さん

「もうおばあちゃんの背を追い越したね。優しいまなざしで孫の谷川友斗さん(12)を整髪する相部靖子さん。友斗さんは靖子さんの退院1週間後に誕生した。」



夫の分まで生きようと思った

「オレね…薄れゆく意識のなか、相部靖子さんは、はにかみながら妻・靖子さんの手を強く握った。そして数分後、静かに息をひきとった。続きの言葉は聞けないまま…平成4年4月9日、享年52、娘・谷川陽子さんと二人だけで見送った。あまりにも急で、あまりにも早い最期の別れだった。数日前、死期を悟った妻さんは、妻に「ありがとう。さよなら」。娘には「母さんのことを頼む」と言い残していた。死因は肝臓がん。2か月前には長崎での旅行を元気に楽しんだ。夫婦で経営する理容店でもバリバリと働いていた。とても病魔に侵されているとは、だれも、そして本人も思っただけじゃなかった。」

「旅行から帰った夫が急にわき腹を押さえて、「ここがキツイね」と、体の不調を訴えました。用心のつもりで町外の病院を受診しましたが、結果が出るまで入院が告げられました。診察室で病名を耳にしたとき、目の前が真っ暗というより、真っ白になりました。」

「手が震えて仕事になりませんでした」と靖子さんは振り返る。

医師から告げられた余命は1年。その後3か月、2週間、1週間と検査するたびに短くなっていった。本人に告知はせず、前向きな姿勢に期待し、ひたすらがんからの生還を信じた。しかし、病魔には勝てなかった。

「夫の死からは、すいぶんの間立ち直れませんでした。なにしろ急でしたから、現実を受け入れられませんでした。でも、娘夫婦をはじめ親族や友人から励まされるうちに、『夫の分まで生きなきゃ、自分の体、自分の健康は自分で守らなきゃ』って思うようになったんです。」

「失ってわかった健康のありがたさ」

手術以降も毎年健診を受け、どこにも異常はなく、これまで健康を維持しているという靖子さん。食事や運動など生活習慣を見直し、自らの健康管理に努めてきた。以来、病気という病気をしたことがなく、13年間で1回もかぜをひいたことはない。毎年、町から国民健康保険の無受診者として記念品が贈られている。自分の命が早期発見によって救われたことから、友人や知人にも健診を勧め、なかには重い病気が見つかった人もいた。

「あのとき、母が健診を受けていなかったら、今はもうこの世にいないかもかもしれません。父が自分の分まで母へ命をあげたように感じる事があります」と娘の陽子さん。父・學さんの最後の言葉の続きは「きつと、母に『愛してるよ』って言いたかったでしょう。照れ笑いを浮かべてましたから」と、陽子さんもほかにがむ。

「自分の命を守るためには自分が健康に関心を持ち、そして行動しなければいけない。受け身ではいけない。家族に生かされ、支えられた命を大切に生きています。」

夫の死から健康に対する意識が変わったという靖子さん。それまで、健康であることは当たり前のことだと思っていた。失ったときにわかった健康のありがたさ、命の大切さ、そして尊さ。相部靖子さんは感謝の気持ちを忘れることなく、穏やかに楽しい毎日一日一日、かみしめるように生きていく。

夫をがんで失うまで、健康であることは当たり前のことだと思っていました。

「健診で救われた命、家族に生かされ支えられた命を大切に生きています」

健診で見つけた自らのがん

夫を亡くした半年後の10月、靖子さんは初めて住民健診のがん検診を受診した。「現実から目を背けてはいけない」と強く

自分に言い聞かせた。結果は2か月後に送られてきた。目に飛び込んできた「要精密検査」の文字、息をのんだ。急いで赤池町立病院を受診した。

娘の谷川陽子さん(左)からもらった大切な手紙。「当時、涙で読めませんでした」と靖子さんは振り返る。



進化する健診

病気の早期発見と予防に欠かせない健診。健康ライフは健診がスタートラインになります。今年から健診センターでの施設健診に切り替え、よりきめ細かく精密な検査が可能になりました。



新たに肝臓・ひ臓・すい臓・腎臓・胆のうを調べる腹部超音波検査（奇数年齢対象）を基本健診に無料追加。健診地区を月ごとに設定しているので、ゆったりと少人数で受診できる（1日最大15人）。事前の健診セット受け取りと料金前払いも不要になり、健診セットは事前送付、料金は当日支払い、当日の検査項目追加も可能になった。



日本人女性の30人に1人がかかるといわれる乳がん。乳腺撮影の機器「マンモグラフィー」を導入したことで、微細ながん細胞も発見できる。健診では腹部超音波検査や乳がん検診のほかに、基本健診（医師診察、身体計測、血圧測定、尿検査、心電図検査、眼底検査、血液検査）肺がん検診（胸部X線撮影、喀痰検査）胃がん検診、大腸がん検診、肝炎ウイルス検診、骨粗しょう症検診、前立腺がん検診などを行っている。1項目からでも受診可能。料金、申し込みなど詳しくは健診センター 28-5512まで。



診察する九州大学病院の山下孝二医師。施設健診では受診したその日に、フィルムなどの結果を踏まえた指導が受けられるようになった。フィルムは健診センターで検査後、提携している大病院に送付、専門医の検査を経て再度、健診センターで確認するという徹底ぶり。疾病の発見率は極めて高い。

「集団健診から施設健診へのシフト」

転ばぬ先の健診

「時間が無い、面倒くさい」と健診を受けない人の大半が理由を口にします。しかし、健康への不安はだれもが持っているもの。「今はまだ心配することはない」という楽観的な人や、「健診で病気が見つかるのが怖い」「余計なことをしない方が気楽に生きられる」という現実逃避的な意識がその背景にあるようです。

「健康づくりはまず健診から」と言われるように、まず自分の状態を知り、疾病を治療・予防し、生活習慣の改善点を見いださなければ何も始まりません。傾向として、毎年健診を受けている人は健康意識の高い人。健診も受けず、健康に無関心な人が自覚症状に気づいたとき、病気が進行しているケースが多いのです。

きめ細かな施設健診

今年、赤池町の健診は大きく変わりました。4月にオープンしたコスモス診療所に健診センターを設置し、集団健診か

ら施設健診へとシフトしたのです。このことよって、まず受診する機会が大幅に増えました。従来は年1回、5日間の日程でしたが、6月から2月までの9か月間にわたり長期間の受け入れが可能になりました。施設健診は集団健診ではできないきめ細かさの特徴。それまでは体育館と健診車両で1日150人を流すように行われていた検査もゆったりとした気持ちで、プライバシーを十分に保たれた状態で受けることができ、精度の高い最新機器でいねいに検査します。

また、その日にわかる結果はその日のうちに伝えます。以前は自分のレントゲンフィルムさえ見ることができませんでした。施設健診ではレントゲンや採血など、健診結果を踏まえた診察や栄養指導を当日に受けられるようになりました。しかしながら、赤池町の健診受診率は伸び悩んでいます。町内の40歳以上すべ



健診を担当する中島貴美子保健師。結果説明会では医師、看護師、管理栄養士、保健師が個別指導する。会場の入口には食生活改善推進協議会の試食もある。



トレーニングルームでは体力測定と健診結果を踏まえ、トレーナーが個別指導を行う。



健診後のフォローとして、血液サラサラ教室、介護予防も兼ねたいいきいき体操教室、かんたんステップ運動教室など生活習慣を改善する各種教室を開催。



結果を見ながら健診当日に行われる栄養指導。管理栄養士が個別にアドバイスする。毎日の食事に関することは夫婦で受けてもらうこともある。

ての人に通知して呼びかけていますが、受診率は依然として低迷。本年度の受診率目標を3割に設定したのに対し、10月末時点では14.7%にとどまっています。一方、年々医療費は増加し、赤池町の国民健康保険でかかる負担費用は昨年度で年間およそ5億6千万円。財政面からも病気を未然に防ぐことが重要になってきました。

求められるセルフケア

町の保健課では、健康の自己管理を重視し、健診後のフォローにも力を入れています。健診を担当する中島貴美子保健師は「健診を受けた人は、絶対に病気にさせない」という気概で臨んでいます。しかし、健康に関心がある人とならない人の差は開くばかり。自分の健康は自分で守るというセルフケアの意識づけをいっそう図る必要があります」と力を込めます。

現在、導入したばかりの健康情報システムで住民の健康課題を踏まえて保健行政に反映していく準備が進んでいます。また、自治医科大学と10年間にわたって町内638人の健康状態を追跡調査してきた情報分析を進め、今後の住民の健康づくりに生かす方針です。合併後の福智町では施設健診と集団健診の選択制の方向で協議が進められています。いずれにしても、それらの取り組みを生かし、効果を得るためには、まず、わたしたち一人ひとりが健康に対する意識を変え、行動に移すことが不可欠になります。

早期発見の鍵は健診 助かる命を助けたい

早さと効率化を求める集団健診ときめ細かさが特徴の施設健診の差は、精度の高さにも表れてくる。手前が今年の施設健診、奥が昨年までの集団健診のレントゲンフィルム。大きさと画質の差は歴然としている。

Medical examination
受けてください、健診。



赤池町のタウンドクター
詫摩衆三に聞く

「**が**んは喫煙、飲酒、食事、運動、遺伝因子が複雑に作用して発症します。広い意味ではがんも生活習慣病健診と医療が融合したかたちで、住民の生活習慣病の解消に立ち向かっていきたい。町の医療の求心力として日夜患者と向き合い続ける「コスモス診療所の詫摩衆三所長。」「日ごろから住民を診ている医師が健診に携わることで生活習慣の根っこから改善し、健診の効果を高めることが可能になった」と、地域密着型による施設健診のメリットを強調します。

きめ細かさが特徴の施設健診は、一人平均2時間半から3時間かかります。詫摩所長は「年に一回、自分の健康のために時間を費やしてもいいと思える『価値ある健診』にしたい。」「行っただけがあった」と思われるような利用者へのセルフケアにつながる機会にしたい」と効率化ばかりに走らない実を結ぶ健診スタイルを大切にします。

赤池町の健診結果を見ると生活習慣病の潜在的な問題を抱えている人が少なくありません。内臓肥満を背景に高血圧、糖尿病、高脂血症などが併発している状態の「メタボリック症候群」は5.4%、内臓肥満などその予備軍は25%におよびます。糖代謝の異常は40%にのぼり、特に糖尿病

の傾向が強いことが浮き彫りになってきました。都市部の傾向が赤池町でも確実に当てはまっています。がんも生活習慣病もかかりはじめはほとんど自覚症状が無いのが特徴。しかし、ひとたび発症すると徐々にその身体をむしばみ、やがては死に至らしめる恐ろしい病気です。

「遅く発見していいがんは一つもない。がん検診は受けて損はありません。毎年受けていれば、万が一見つかったとしても比較的初期なわけですから、治る可能性は高い。勇気を出して、ぜひ健診を受けてください。」

詫摩所長は、大病院とコスモス診療所の病診連携も年々強化しています。年に一回健診を受けるかどうかによって、命が助かるか、手遅れになってしまうかが決まります。二つと無い大切な命です。自分のために、家族のために、受けてください、健診。

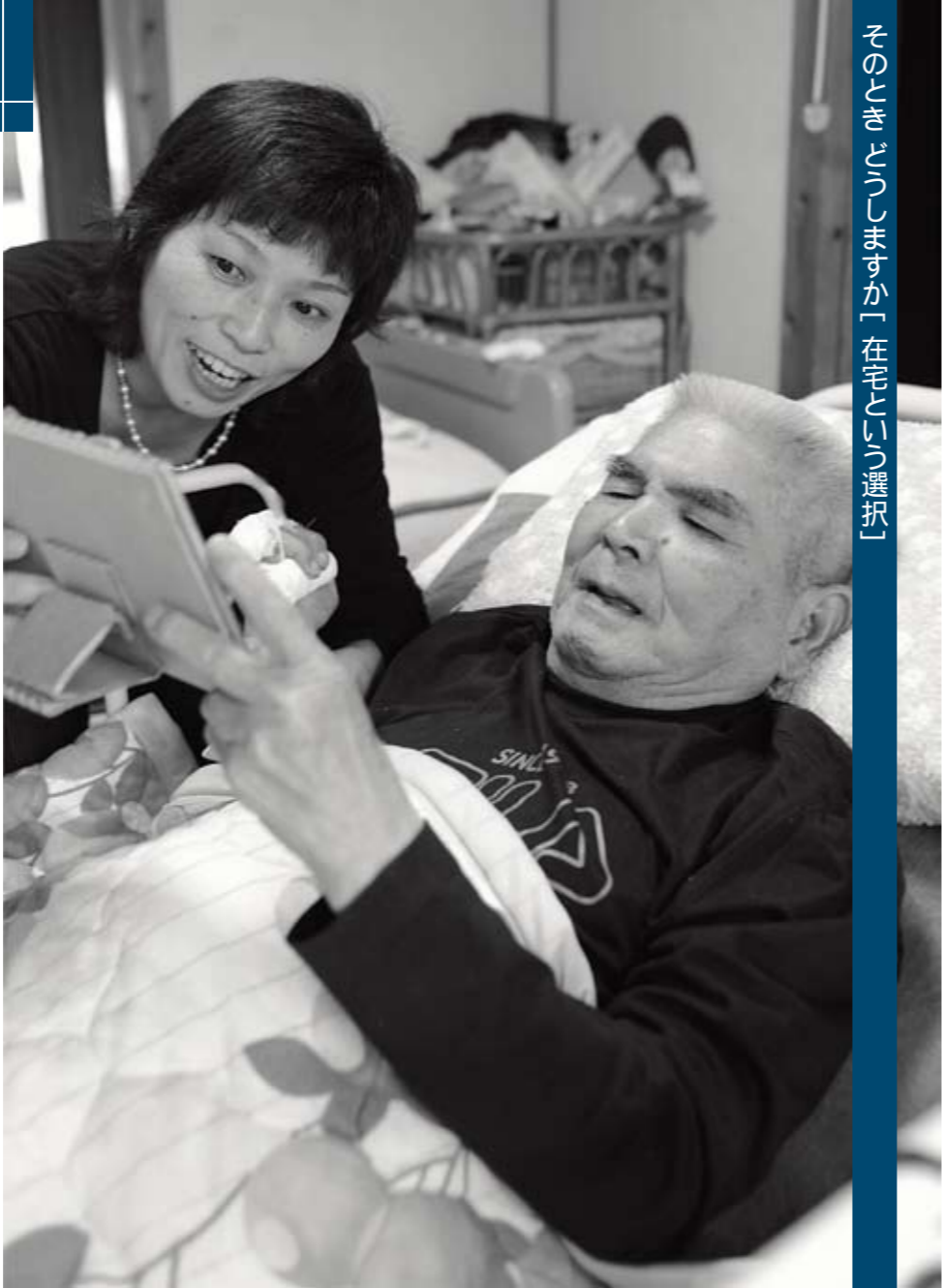
【たくま・しゅうぞう】総合保健施設コスモス施設長、コスモス診療所所長。平成4年から赤池町立病院院長として地域密着型の医療を展開、財政再建に取り組んだ。現在は健康長寿の町づくりを目指し、生活習慣病の解消に全力を挙げている。



第一部

そのときどうしますか「在宅という選択」

父・春雄さんと思い出の写真を手に「母さんと二人で、夢みたいだね」と有田千鶴さん(西組)



母れと20年ぶりの青春だね。

「父さん、いい顔してるよ」。父は脳内出血の後遺症、母は重度の認知症、要介護5の両親を介護する有田千鶴さん(46)。父・春雄さんを20年前から、母・千代女さんを10年前から自宅で介護し、親子3人の生活を続けてきました。父も母も外に出ることといえば、病院に救急車で運ばれるときだけ。春雄さんはいつも窓から外を眺め、並んだベッドで

動くことのない妻の横顔を見つめていました。施設に行ったら一度と帰れない」と言つた父をなだめ、今年4月に町が開設したデイケアセンター福智を利用、重度の要介護者も受け入れ可能なこの施設で、20年ぶりに夫婦二人の外出がかないました。写真の中で千代女さんを横にはほほ笑む春雄さん。ずっとずっと大切にしたい、一枚の写真です。

だれもが確実に公平に老いていきます。介護は近い将来いずれだれもが直面する課題です。もし、あなたが倒れたなら、そのときどうしますか。「住み慣れた自宅でいつまでも暮らせる」「家族以外の手があたたかく支えてくれる」そんな選択が身近にあったら、すごく安心できると思うのです。今年、この小さな町に「在宅で介護する」公的環境が整いました。いつでも、どこでも、いつまでも... この町には「やさしく支える手」がすぐそばにあります。



【有田千鶴さんの宝物】写真
My treasure "Photograph"

クローズアップ

要介護5の両親を在宅で介護する

有田千鶴さん

愛情返しの毎日

有田 千鶴さん

心すり減らした母の認知症

「今晚が山です」と医師は言った。昭和59年の秋、父・春雄さん(当時83)が突然、脳内出血で倒れた。一命は取り留めたが、重い後遺症が残った。有田千鶴さんの現在まで、21年にわたる在宅介護の生活は、25歳のときに前触れもなく始まった。

その日から千鶴さんは、父の通院や身の回りの世話などを献身的に行った。それに反し、母・千代女さんは夫の介護から逃避するようになり、看護師である娘への依存心を強めていった。

宮田町の炭坑で働いた父、ぜんそくと高血圧の持病があり55歳で仕事を離れた。選抜場で働いていた母、体の弱い父を力パーするように、いつもしゃんとしていた。「緊張の糸が切れて、母に疲れが出たのかも知れない」と千鶴さんは思った。

昭和61年、父の介護に専念するため、千鶴さんは勤めていた北九州市内の病院を辞めた。母が認知症かな」と感じ始めたのはこのころから。感情の起伏が激しくなった。父の体の機能低下と母の認知症の悪化、この二つが同時進行していった。

平成元年、家からほど近い施設に看護師として再就職した千鶴さん。働きながらの父の介護はハードだった。しかし、それ以上に母の認知症に神経をすり減らした。昼夜を問わず徘徊する母。すべての施設を徹底し、母の手が届かないところにも鍵を付けた。平成4年、頸椎の手術を期に、母は自分の便を丸めたり壁に塗ったりする行為に悩む。便「ね」をするようになる。千鶴さんが隔室して真っ先にすることは、ドアを閉めて家の中に母の便がないかにおいをかくことだった。そのうち母は物を頻繁に隠すようになり、財布の



自宅では妻と向き合えない春雄さん、デイケアセンター福智にある高性能車いすで、千代女さんの手を握ることが可能になった。

中はお札の代わりにティッシュペーパーが入っていたこともあった。洗剤を飲み、救急車で運ばれたこともある。認知症は外見ではわからないため、周囲の理解を得るのが難しかった。

「頼むから家で」ぶっきれた父の言葉

寝たきりの父と認知症の母、働きながらの両親の介護はともハードだった。在宅介護で特に大変なのが入浴。千鶴さんは一人で春雄さんをベッドから下ろし、毛布にのせ、風呂場まで引いて運んだ。母の拒絶も激しかった。二人の身の回りの世話、生きることの最小限の介護がやっとの生活だった。千鶴さんは体力的に限界を感じていた。

平成10年、そんな千鶴さんに転機が訪れる。自宅にスロープを取り付けるため役場に相談、深刻な現状を把握した保健師や福祉担当者から訪問介護の利用を強く勧められた。しかし、春雄さんは娘の介護しか受け入れず、千鶴さんもまた「自分の代わりはいない」と抵抗があった。サービスを受けるべきか悩むなかで、千鶴さんは、春雄さんに母の施設入所の話を持ちかけた。

「父から『頼むから家で』と強く言われました。『自分もここにいたいし、母さんもここでみてくれ』と。父の涙ながらの一言でぶっきれました。千鶴さんは父の意志を最大限尊重することに決めた。21年間、在宅での介護を続けたなかで弱音を吐いたのは、後にも先にもそのとき限りだった。

「訪問介護、訪問看護、往診などが連携した早期の対応をしていただいて、町ぐるみの協力に心から感謝しています」。千鶴さんはサービスや制度を知らないことは、すくくマイナスタと感じ、平成11年にケアマネジャーの資格を取った。

平成12年4月、介護保険制度がスタートし、千鶴さんもやっと自分の時間が持てるようになった。その年の9月に母は腰椎の圧迫骨折で寝たきりになってしまったが、徘徊や介護拒否の心配はなくなった。そして今年4月、町立の総合保健施設が誕生。重度の要介護状態の人も受け入れるデイケアセンター福智を利用した。心にバリアーを張り、最初は嫌がっていた春雄さんだったが、外に出て、人とのふれあいを通じ、ほほ笑むだけの表情から声を出して笑うようにならなくなった。

「父の元気の源はデイケア、遅かりし青春を取り戻しているような感じです」と千鶴さん。

そんなある日、「お父さん幸せ?」と父に聞いた。「おお、幸せ」と春雄さんは目を見て、大きな声ではつきりと言った。父の「幸せ」という言葉、家にいたい」という気持ちがいよいようれしかった。

「在宅介護は年中無休ですが、サービスを利用して、生活のメリハリができました。人に任せられることとお願ひし、自分しかできないことをやる。一人でやるつと気負ってはいけません。わたしの自慢は、介護の愚痴を言ったことがないこと。介護する方もされる方も不幸ではないし、わたしが幸せじゃないと親も幸せになれないから……」。

両親から惜しめない愛情をもらったという千鶴さん。「わたしは両親に愛情を返していくだけ、苦しいありません。幸せなつと笑った。

父の「幸せ」という答え、「家にいたい」という気持ちがいよいよもつれしかった。

「介護する側もされる側も、お互いが

幸せでなければ幸福はあり得ません」

在宅介護最前線

「そばにある安心でありたい」

サポートが必要なきに、環境を変えずに、自宅で、穏やかに介護する。

温かくさしのべられる手や見守るまなざしが、すぐそばでみなさんの安心を支えます。

在宅介護でまず必要となるホームヘルプサービス。過度の利用は身体機能の低下につながるため、適度に利用することがポイント。家族にも正しい介助動作をアドバイスする。



「在宅か施設か」介護の選択

「もし介護を受けるようになったら家族に迷惑はかけん。施設に入るばい」。冗談まがいの言葉も元氣なときだからこそ言えるもの。いざその立場になると言えないものです。また「在宅」という言葉を聞けば、家族は自分の生活すべてを、あるいは大部分を介護のために費やさなくてはいけないと思いがち。だから在宅介護に踏み切れない人はたくさんいます。

「今までの生活ができるだけ崩さないように介護する。それを手伝う人はいる」。そういつ保障があったら、介護する側もされる側も気持ちがあつと楽になります。みる人の気持ちと和らぐと、みられる人も安心して自宅に居ることができるようになります。

24時間体制のサポートを実現

「だれもが住み慣れたわが家で、いつまでも暮らせるように」という目標を掲げ、総合保健施設コスモスでは、診療所、保健課、社会福祉協議会が連携し、住民の

在宅介護に当たっています。

療養については医師の往診や訪問看護、身体機能を向上させたいときは送迎付のデイケアや訪問リハビリテーション。日常生活では身の回りの世話をする訪問介護や訪問入浴など、必要に応じた介護サービスを行うセクションが一つの施設に集まっています。特に訪問看護では、ターミナル看護（終末期の看護）も24時間体制で行い、最後まで自分らしく生きられるよう、サポートできるシステムを整えました。



独り暮らしのお年寄りに安心を届けるのも訪問看護の役目。看護師のやさしい一言に大きな笑顔がこぼれた。

在宅介護では住宅改善も重要、最も多い5cm以下の段差による転倒骨折を防ぐ。

介護で最も負担が多い入浴、町では訪問入浴やデイケアの特浴が利用できる。

介護保険制度では、手すり取り付けの助成や介護用具のレンタルもある。



寝たきりの人でも十分に対応できるデイケアセンター福祉、車いすを安定させる特別車両で送迎する。

都会の介護施設では、百人以上の希望者が待つ状態もめずらしくありません。在宅介護の感覚は都会と地方では少し異なるようです。隣り近所と交流の少ない都会と違って、赤池だったら「住み慣れた自宅が一番」って思う人が多いかも知れません。見慣れた山々や町並み、窓から見える庭、声を掛けてくれる近所の人たち。小さな町だからこそ安心できることはたくさんあります。

環境が変わると精神状態が不安定になり、ストレスで症状が悪化することはよくあることです。特に体が弱ると、ほんの少しの環境の変化が体にも心にも大きく作用します。そんな時だからこそ、環境を変えずに穏やかに介護する。そして医師、看護師、理学療法士、ホームヘルパーなど、専門家の手がさりげなく入るといふライフスタイルを理想とし、町の在宅介護は日夜、絶えず動いています。



「重度でも身体機能を引き出せます」とデイケア福祉のビスタ由美子作業療法士。



「利用者が何を求めているかを察する感覚が必要」と訪問介護の亀谷由美子主任。



「本人や家族の精神的な負担を取り除くことが大切」と訪問看護の立花寿子主任。

住み慣れたこの家で 最後まで自分らしく

Home health care 在宅という選択があります。

11年前、孤独死が連続したのをきっかけに発足したサポーター会議。毎月開催し11月で136回目を数える。介護の最新情報研究や情報交換を行い、総合保健施設内職員、県職員、民間施設のスタッフで構成している。



町の介護現場を20年みてきた
中野雅浩氏に聞く

「仕事を辞めて親の介護をする。以前はそれが当たり前前の時代でした。町の介護福祉現場に20年間かかわってきた中野雅浩さん。家族が周囲から隠れるように介護をし、それができない人は施設に入るという姿を間近で見ました。やがて、共働き世帯の増加や核家族化が進むなど、介護を取り囲む環境も次第に変わってきました。平成12年4月からの介護保険制度は、そうした社会状況に対応するため「介護の社会化」を進める目的でスタートしたものです。」

「現在、介護認定者は田川市郡で1万2千人、赤池町で730人います。社会福祉協議会では制度開始前からホームヘルプサービスを行っていましたが、掃除や買い物などが主で、身体介護が必要なケースは「くわすかでした。それが『今までその人たちはどうしていたの?』と言っくらい掘り起こしできました。この点では介護保険の意義は大きいと思います」。中野さんは介護保険制度によって医療と福祉の間に埋もれていた介護が、やっと表舞台に出たと評価します。

「赤池町は在宅介護の施設環境が十分に整っています。各機能が総合保健施設に集まっていることで課題も共有でき、連携して問題の解決に当たることが出来ます。利用者が遠慮することなく、家族が迷わずに『在宅』という選択ができる町にしたいですね。」

「最後まで自分らしく生きるために、この町には『在宅』という選択が身近にあります。」

【なかの・まさひろ】赤池町社会福祉協議会係長。平成10年からケアマネジャー（介護支援専門員）としてさまざまなケースのケアプランを作成。昭和61年から福祉現場で活動し、介護問題に携わってきた。



第三部

いつまでも健やかに「めづすはミツねん」

クローズアップ

健康長寿日本一 112歳の最高齢者

みながわ よね
皆川 ヨ子さん

敬老の日を前にした9月16日、入所する町内の特別養護老人ホーム「慶寿園」でのお祝い会で。



「よう咲いとる」。112歳の皆川ヨ子さんが、梨の花の押し絵をなつかしそうにながめました。長寿日本一の敬老お祝い会で「息子夫婦の梨園を手伝っていた思い出に」と孫の安永昭俊さんが心を込めたプレゼント。ヨ子さんは結婚後間もなく夫を亡くし、野菜や花を作りながら行商して5人の子供を育てました。梨園を閉じた今年、最後に咲いた梨の花... 土と風のおいが記憶とともに届きました。

最後に咲いた梨の花だよ。



【皆川ヨ子さんの宝物】押し絵
My treasure "Raised picture"

日本一の健康長寿がこの町にいます。心と体をはぐくむ風土がこの町にあります。大きな安心を届ける施設がこの町にできました。いつまでも健やかに生きたい。だれもが願うこの思いは赤池町の大きなテーマです。病気になるらない、寝たきりにならない、「治療より予防」を合い言葉に全国に誇れる長寿の町をつくる。保健・医療・福祉の連携の輪で「全員健康長寿」を目指します。あこがれは皆川ヨ子さんです。

心づくしもありがとく

皆川ヨ子さん

園の立花シゲ子施設長は「入所者のみなさんもヨ子さんを心から尊敬し、慕っています。ヨ子さんのような年の取り方をしたいな」と、会ったたびに思っています」と目を細める。

長寿日本一の秘けつを探る

はたして、皆川ヨ子さんの長寿の秘けつは何だろうか。その質問にはまず「きちんとした食事と十分な睡眠」が挙げられる。ヨ子さんは現在、夜8時に就寝し、昼寝もして、1日に14〜15時間の睡眠をとっている。少量だが3度の食事をしっかりととり、好き嫌いもなく、食事も自分の手で口に運ぶ。若いころから上野の自然の中で体を動かして働き、赤池の農産物をバランスよく食べてきた。きれいな好きなので身の回りはいつも清潔。106歳まで自宅で身の回りのことや庭仕事をし、今で言うスローライフを楽しんだ。持ち前の体の丈夫さもあるだろうが、皆川ヨ子さんの健康は、食事や睡眠も含めた規則正しい生活がベースになって支えられている。今でも週1回の診察を受け、年1回の健診で健康チェックを欠かさない。

そしてもう一つ重要な要素が皆川ヨ子さんの「気」の部分。性格はよくよませず、おおらかで明るい。「ありがと、サンキュー」が口ぐせで、感謝の気持ちをいつも忘れない。ストレスをためない穏やかな心が、ヨ子さんの活力を支えている。週に何度も足を運ぶ孫の平山美智子さんは「おばあちゃんが人の悪口を言っているのを聞いたことがありません。自分に厳しく人には優しい、わたしが一番尊敬する人です」と日本一の祖母を見つめた。洋服の色は薄いピンクやブルーなどやさしい色を好むおしゃやかなヨ子さん。鏡を見るのが多くヘアスタイルも念入りに自分で整える。テレビでは時代劇と相撲、お酒は日本酒がお好きだったと

か。週一回、慶寿園で行われる音楽療法では、三味線で培ったリズム感を披露する。趣味を持ち、毎日を楽しむ前向きな姿勢も長寿の秘けつの一つなのだろう。体調がいい時は車いすで施設内の散歩を楽しみ、特定の薬も飲んでいない。

また、生きていくうえで環境はとても大切。ヨ子さんの場合、入所する慶寿園は、自宅から近い福智山のふもとにある。自然豊かな環境もおいしい空気も変わらない。今年、ヨ子さんは発熱して「スモス診療所で入院療養したが、2度ともマスクに要望された会見の後だった。たくさんマイクとカメラが向けられ、ヨ子さんは集まった報道陣に「たいそうな人があるね」と驚いた様子だった。一日のリズムがくずれ、日ごらないストレスがかかったことが体調を崩す原因になった。主治医の出口智弘副所長は「ヨ子さんは自発語もできますし、食事も自分で口に運びます。食べられる間は免疫力も維持できますから、大きな病気が出なければ、まだまだ十分長生きできると思います」と療養後の状態を説明する。

日本一の輝く笑顔で

赤池町の最高齢者として住民から敬われ慕われてきた皆川ヨ子さん。6月には名譽町民となった。保健・医療・福祉のまちづくりを進める赤池町にとって、ヨ子さんは健康長寿のシンボルの存在であり、町の誇り。わたしたちは「いつまでも健やかに生きたい」という願いをヨ子さんに照らし合わせ、ヨ子さんもまたその笑顔でわたしたちに生きる喜びと希望を与えてくれる。

「120歳まで生きてくださいな」と言う周囲に「あたしゃ2百歳になるかね」と冗談をこぼした皆川ヨ子さん。表紙の写真を撮影した日もいつもどおり、日本一の笑顔を見せてくれた。

温かいタオルで顔をふき、お気に入りのクシでいいいに髪をとかすのが毎朝の日課。鏡を見ながら自分で身だしなみを整え、ヨ子さんの一日がスタートする。年が明けてすぐ、来年の1月4日に113歳の誕生日を迎える。



4月6日、満開の桜の下で行われた記者会見。入所する慶寿園の玄関前で、報道陣に笑顔で応える皆川ヨ子さん。右端は孫の平山美智子さん。

明治から平成まで 赤池で112年

「皆川ヨ子さんが日本一の長寿に！」町中が沸いた知らせは今年の4月5日、桜前線に乗ってやってきた。翌日の記者会見で「日本一になったよ。みんなおめでとうって言いよるよ」と耳元で

声を掛けられると、ヨ子さんは「そげんなるかね、ありがたいこと」と手を合わせた。

皆川ヨ子さんは、明治26年1月4日に4人姉妹の長女として赤池町上野(当時上野村)に生まれた。農業をしながら女手一つで5人の子どもを育て、明治・大正・昭和と激動の時代を駆け抜けてきた。ヨ子さんの顔のシワは、112年間この町の風土のなかで刻まれたものだ。平成2年に98歳で赤池町の最高齢者になり、敬老の日が近づくと必ず町の広報紙をヨ子さんが飾った。孫7人、ひ孫12人、玄孫2人に恵まれ「20歳若く見える、笑顔がステキなおばあちゃん」と町の長寿の象徴としてのイメージが定着していった。3年前に上野の「慶寿園」に入所したヨ子さんは、骨折を避けるため車いすで生活しているが、耳が遠いほかは、今でも新聞を読んだり、時には冗談を言ったりするなど、健康状態も良好。慶寿



明治・大正・昭和・平成：赤池の風土の中で、時代とともに生きてきた112年

健康長寿日本一の秘けつは食事と睡眠

ストレスをためない、規則正しい生活。

健康長寿の町に

「コスモスが目指すプライマリケア」

生活習慣病ゼロを目標にした「予防」と、保健・医療・福祉の連携で健康長寿の町をつくりまします。
 病院のベッドを各世帯のベッドに置き換えた「在宅」がバックアップし、すぐそばで支えています。



コスモスから眺める福智山は絶景。健康長寿をかくむ土壌がこの町にはある。

19床ある入院病床のうち、一般病床7、長期療養型の病床を12設置し、在宅療養までの期間を診療所でサポート。



オープン当初は待合い時間も長く、混雑していた待合室もシステムの効率化でスピーディーに。



10月から総合案内所を設置。看護師が患者の介助や声がけをする。急診の判断もこの段階で行う。

ヨ子さんのように健やかに

適正な睡眠時間をとる 適正体重を維持する 朝食を毎日食べる 喫煙をしない 過度の飲酒をしない 定期的に運動する 間食をしない ストレスをためない 日本最高齢者の皆川ヨ子さんは、これら生活習慣病予防のチェック項目を長年にわたりクリアしています。このことから日本一の健康長寿、ヨ子さんに近づくと、まず寝たきりの要因である生活習慣病を遠ざけることが重要だと言えるでしょう。

総合保健施設コスモスは、今年4月「予防」と「在宅」を合い言葉にオープンしました。現在、疾病予防、介護予防のため生活習慣病の解消を第一に取り組んでいます。以前の町立病院では外来と入院の二足のわらじをはいた状態で、「入院医療」が主体でした。コスモス診療所になってベッド数は減りましたが、60床から19床になった現在は在宅医療の駆け込みベッドとしての役割を果たしています。診療所は外来を主体に、従来の病院のベッド

を各世帯のベッドに置きかえた「居宅医療」を展開。院長は「午前午後、だれもが訪れることができ、時間外も通じて問題を解決している施設。受診しやすいコンビニ感覚の施設を目指したい」と総合保健施設の当初のテーマである「プライマリ・ケア」の考え方を施設運営の中心に位置づけています。

「プライマリ・ケア」とは、予防から初期治療までをカバーし、保健・医療・福祉が連携するなかで、身近にいつでも療養できる体制が整った健康を支えるサービスのこと。総合保健施設コスモスは、診断・治療はもちろんのこと、疾病・介護予防から健康増進、リハビリテーション、療養指導に至るまで、それぞれの状況に応じた包括的なケアを継続的に進めています。

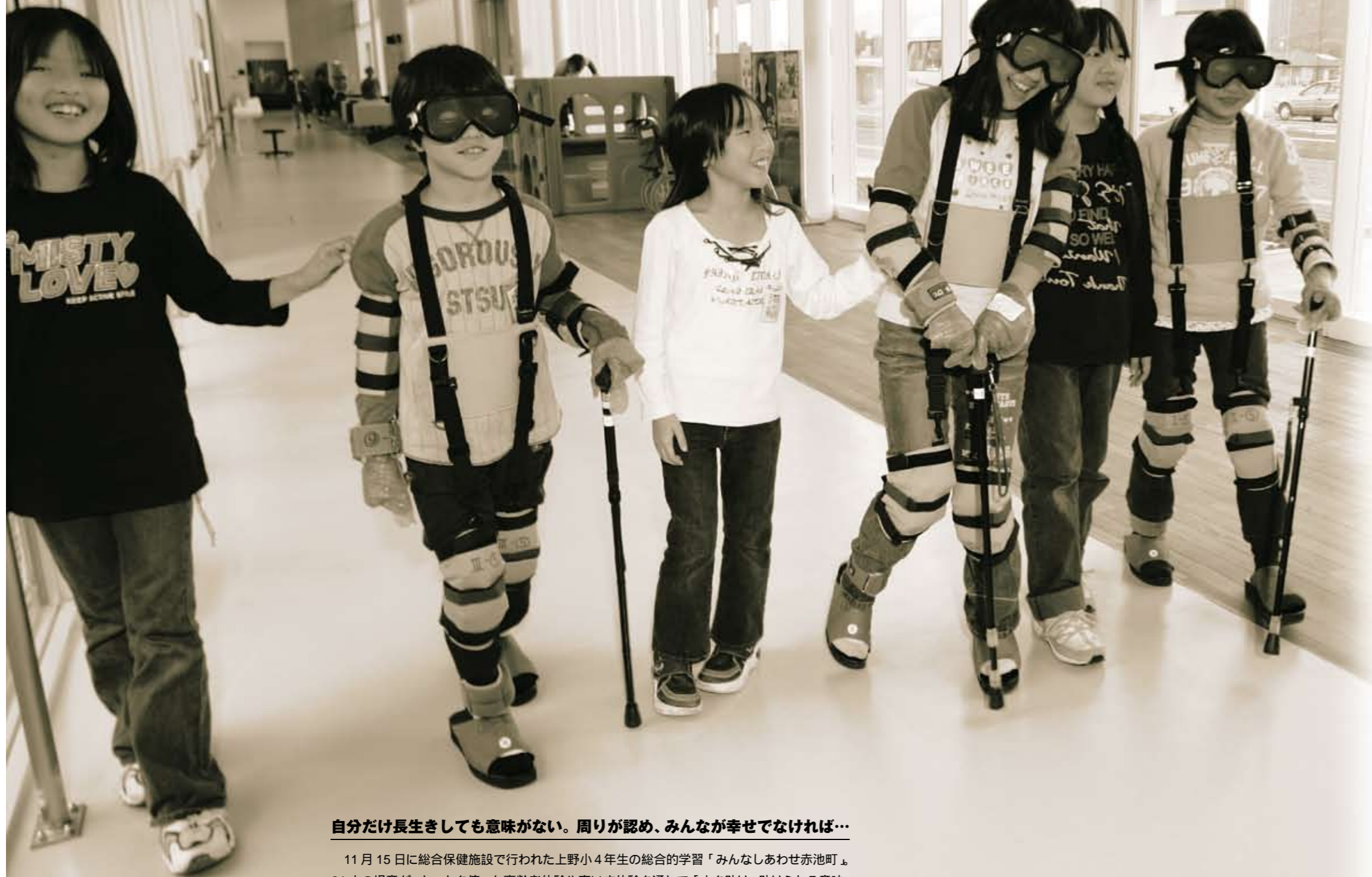
赤池町の目標は「全国に誇れる健康長寿の町」。病気になるににくい健康づくり、住み慣れた自宅で安心して療養できる環境を充実させ、この町に住む全員が皆川ヨ子さんのようにいつまでも健やかに暮らせるよう、すぐそばで支えています。

いつでも、だれでも利用できる。
 すぐそばにあるコンビニ感覚の施設を目指して――



午後の外来診療にあたる院長。以前の町立病院では午前中が外来、午後以降は手術や入院医療の対応に医師が追われていた。コスモス診療所では午後も外来に対応できるようになり、医師が診察する健診とあわせて、より地域に密着した医療が可能になった。従来の内科・外科・リハビリテーション科・整形外科に加え、診療所オープン時から要望の高かった眼科（当面週1回）を追加。早い段階から病気をくい止め、健康長寿のまちづくりを目指す。

支えてくれる手がそばにあるって 心強いね。
 みんな元気で健康だったら もっと もっとステキだね。
 このまちですっと生きていけるって 何だかホッとするよね。



自分だけ長生きしても意味がない。周りが認め、みんなが幸せでなければ…

11月15日に総合保健施設で行われた上野小4年生の総合的学習「みんなしあわせ赤池町」。21人の児童が、セットを使った高齢者体験や車いす体験を通して「人を助け、助けられる意味」を考え、地域社会の一員として共生することの大切さを学んだ。町では、保健・医療・福祉の連携だけにとどまらず、学校教育・生涯学習・生涯スポーツの分野まで連携の輪を広げ、だれもがいざいきと安心して暮らせるまちづくり、互いの健康を喜び助け合う人づくりを進めている。



LIFE

治療から養命の時代へ

「イヤなことは考えず、気楽に生きた方がいい」。健康な状態で、病気になることや寝たきりになることを考える人は少ないでしょう。いずれ老いや死は、だれにでも必ずおとずれるのに、わたしたちは意識的にそういう話を避けているのかも知れません…。しかし、もはや自分の健康を人任せにする時代は終わりました。健康づくりは「治療の時代」から「予防の時代」へと移り変わり、医療もまた「病気を診る医療」から生活習慣も含めた「人を診る医療」へと変わりつつあります。病気になって病院に行くのは、火事になって消火器を買いに走るようなもの。大切なのは治療より予防、養生して「命を養う」ことです。

空いた日を見つけてはウォーキングで健康管理をしているという浦田弘二町長は、健康長寿のまちづくりについて、次のように語ります。
 「長寿の町をつくるには、未病の取り組みが欠かせません。体と心は結びついていますから肉体型のみならず精神面の充実が求められます。健康と生きがいづくりは、自分の好きなことを楽しむことが一番。わたしは、みなさんのニーズを把握しながら、やりたいこと、打ち込める選択肢を提案していきたい。お金をかけなくても地域や学校など既存の環境を生かせば、相乗効果を見込める取り組みは可能です。また、自分の健康は自分で守る『セルフケア』の大切さを子どものころから意識づけ、相手の立場になって手をさしのべられる介護への理解や高齢者を敬うまなざしをはぐくみたい」と、高齢化社会が進むなかで、目先のことでなく、未来を見すえた取り組みが必要だとしています。

「自分の体は自分が一番よく知っている」というふうに、自らが自分の体のゼネラルドクターとして状態を知り、生活習慣病を予防することが、健康づくりに何より有効です。健康な体で楽しむ生きがいが、みずみずしい心を養い、介護予防につながります。そして「もし病気になったときは適切な医療が受けられ、住み慣れた家での療養を支えてくれる施設がすぐそばにある」という安心が、健康でステキな毎日を後押しします。総合保健施設コスモスは、みなさんの健康と命と生活を支える身近な施設として、大きな安心を届け続けていきます。



赤池町総合保健施設コスモス

人権を語る夕べ

日時 / 12月8日木 午後7時開場 午後7時30分開会
場所 / 赤池町同和対策中央研修所
テーマ / 「私の出会った日本のかたち、日本のこころ」
講師 / 和都村企画代表 ロバート・ワトソン氏(日田市在住)

特設人権相談

日時 / 12月7日水 午前10時30分から午後3時まで
場所 / コスモス保健福祉センター
相談担当者 / 人権擁護委員・行政相談委員

人権ふれあいウォーキング大会・ふれあい体操会

日時 / 12月11日日 午前9時受付
午前9時30分開会 午前10時スタート
集合場所 / ワイ・ワイ・ワ広場 上野小学校

小中学生の人権ポスター掲示

期間 / 12月4日日から12月13日火まで
場所 / 中央研修所・役場・町民会館・総合保健施設コスモス・
赤池郵便局・JA たがわ市場出張所・JA たがわ赤池支所



「お国のために」と出征する兵士たち (昭和10年ごろ)

戦争に人権はない。いま語り継ぐ平和。

今なお世界では、戦争によって多くの尊い命が失われています。戦争は人間の最も大切な「生存の権利」すらも奪う最大の人権侵害。わたしたちは二度と同じ過ちを繰り返さないよう、戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継いでいかなければなりません。21世紀が戦争のない平和の世紀となるよう、戦地にいた二人の証言をもとに、人権の大切さを考えます。

12月4日から13日の10日間は赤池町人権旬間です。戦後60年をむかえた今年「戦争と人権」について考えてみましょう。

「ババツと音がした
バラスくそばの4人
が倒れて、声も出さずに死
にました。どこに敵がいるか、
どこから弾が飛んでくるか
分からんです。そこは狂気の世界でした」。

昭和18年、杉田守さんが所属する部隊は、
門司港からシンガポールへと向かいました。
着くまでに30隻の半数が魚雷で沈没。そこが
ラビルマ(現ミャンマー)を経て、中国の雲
南省近くまで進軍し、大きな犠牲を出しまし
た。状況は過酷を極め、ついに撤退命令が下
ります。杉田さんは工兵として敵に包囲され
た部隊の退路をつくる役目。命からがら退却
するなか、さらに味方だったはずのビルマ軍
が反乱し、前も後ろも敵に囲まれました。待
ち伏せによるゲリラ戦で地獄を見たのです。
朝も夜も行軍し、飢えと病気に倒れた兵の
死体が次々と転がっていました。
「負傷した兵が自決しようとして『手りゅ
う弾をくれ』と泣き叫ぶんです。病気で倒
れた者は撤退の速度が遅くなるので、置き去
りにされていました。次々に劇薬を注射され
る光景を見て、『ここは人間の世界ではない』

しかつたとき、死角から弾が撃ち込まれま
した。5人も倒れ、うち2人は戦死。負傷
した部下を抱きかかえたとき、機関銃で右足
を撃たれました。清原さんは右足の指を負
傷はうづつ戻り、命を拾いました。「人
が人を殺し、命を取り合う戦地は、みな正気
ではなかった」と思い起こします。

「命令に背けば撃ち殺す。上官が『弾は前
ばかりじゃないぞ』と言っていました。戦地
では矛盾ばかりで、その矛盾が通るのです。
戦闘では弾の下をくぐって弾の方向に向かっ
て進みます。とにかく前へ、前進あるのみで
す。あのとき負傷していなかったら、恐らく
わたしは前線で息絶えているでしょう。わた
しが生きているのは運がいいだけです」と清
原さんは戦争の極限の状態を説明します。

杉田 守さん

昭和18年、久留米西部
52部隊に入隊。敵に包
囲されたビルマから撤
退する突破作戦を経験
し、無事生き残った。
徳人原在住、81歳。



と絶望しましたね。親しかった同郷の戦友も
腕の傷口からマラリアに感染し、骨と皮の状
態になって死にました。彼の姿を見て涙が止
まらなかったです」。杉田さんたちは川に浮
かんだ日本兵の死体をよけながらイカダで下
り、撤退しました。

昭和16年に入隊した清原春政さん。翌
年中国に進軍し、漢陽を経て桂林に
迫りました。「負けている状況で、『反転作戦』
と称した無謀な戦闘でした。わたしは道をふ
さく砲撃と呼ばれる砲の破壊を命じられ、夜
襲で部下の5人と二つめを攻略。二つめにさ

「上官の命令は絶対。逆らえば半殺しです。
人間の尊厳なんてあり得ませんでした。あんな
恐ろしい戦争は絶対にしちゃならん」と杉
田さん。「万歳」ではなく、母や妻の名を叫
びながら死んでいった戦友の声が忘れられな
い」と唇をかみしめます。

「敵 味方も、兵も国民もただ苦しむ
だけ、戦争をしていいことなんて一
つもない。若い人たちに平和への感謝の気持
ちを持ってほしい」と二人は口をそろえます。
戦争は人間にとって人権を侵す最大の暴
力です。互いに相手を認め、人権を尊重しあ
えば争いはなくなるはず。わたしたちは、命
と人権、平和の尊さをいつまでも忘れてはな
りません。

清原春政さん

昭和16年、都城部隊に
入隊。中国での反転作戦で
部下を助けた時、死角から
機関銃で右足の指を撃たれ
負傷した。南町在住、85歳。



10月25日、戦没者の名を刻む忠魂碑前で行われた遺族会の戦没者追悼式。63人が出席し、献花した。

今年、赤池の子どもたちが初めて韓国を訪問しました。 泗川市で一年ぶり再会

● 子どもたちの日韓交流 2005

3年前、上野焼400年祭をきっかけに始まった日韓交流。
 昨年は泗川市から来町し、今年、赤池の小学6年生25人が泗川市を訪問しました。
 海を越えて友情を温め、初めて異文化に触れた貴重な体験をレポートします。



およそ400年前に尊楫もこの海を眺めたのだろうか... 三千浦からの美しい眺めに思わず息をのむ。絶壁のまわりの奇岩には、たくさんの伝説が残っている。



海と島越しに見える南海瑞山の夕焼け、韓国の「9大日の入り」の一つに選ばれた幻想的な風景だ。



海岸沿い4kmにわたって残っている恐竜の足跡は、およそ7000万年前のものと推定されている。



歓迎ムードに包まれた校庭でふれあう子どもたち。元気いっぱい遊具遊びやサッカーで交流した。

韓国泗川市は上野焼開祖・尊楫ゆかりの地。文祿・慶長の役を機に、ここから海を越えて渡来した尊楫は1602年、豊前藩主・細川忠興に従って上野の地に窯を開きました。今から400年以上も前のことです。

韓国泗川市との日韓交流は3年前の上野焼400年祭がきっかけ。昨年は泗川市の三成初等学校から27人が来町。そして今年、上野・市場両小の6年生25人による泗川市初訪問が実現しました。10月28日から30日までの2泊3日、異文化に触れ、1年ぶりの友情を温めました。

韓国までおよそ3時間、福岡から高速船に乗って釜山港へ向かいます。バスポートも韓国の通貨ウォンも初めて手にする子どもたち、もちろん出国も入国も初めての体験です。釜山からは高速バスで西へ、およそ2時間かけて泗川市に到着しました。

たどり着いた三成初等学校では手厚い歓迎が待っていました。友達と名前を呼び合い、手を握り合って再会を喜びます。1年ぶりの再会とあって、互いに背も高くなり、驚きの声も上がっていました。訪問前、赤池の子どもたちは、昨年に続いて事前研修でハングルを学習。韓国の友達も日本語を覚えていてくれて、昨年に比べ、一段とコミュニケーションがとれるようになっていました。

赤池の子からは「校庭が広い、校舎がカラフル、日本の景色に似ている」という感想が多かったようです。そこから400年祭を機に開かれた九龍窯でやきもの作りに挑戦。そのまま窯元に宿泊し、窯の熱を利用した床下暖房のオンドルも体験しました。

2日目は、三成初等学校で韓国の蹴鞠や80人以上が遊ぶ校庭でサッカーを楽しみ、親交を深めました。古窯跡・航空資料館・恐竜博物館も見学、海辺ではすばらしい眺めと恐竜の足跡に出会いました。夜はホテルでレセプションとプレゼンテーション、韓国の友達とはここで別れます。1年前は泣いたけど、今年はグツと涙をこらえる子が多く、「また会おうね」と手を振る子どもたちの姿に、1年間の成長を感じました。

3日目は普州城と歴史博物館で文化を学び、韓国の風土を体にくわしく吸収して、帰路につきました。

キムチの辛さも海に沈む夕日の輝きも大切な思い出でも言葉じゃなく心で通じた友情は、これから先もずっと子どもたちの胸に生き続けることでしょう。



三千浦ホテルで行われたレセプション、浦田町長が出席し、歓迎する泗川市に感謝の意を表した。

400年前 尊楫が越えた海

上野焼開祖ゆかりの泗川市



【泗川市】文化遺産と観光資源が豊かで、空港、港湾、高速道路など交通網が発達している交通の要衝地。航空宇宙産業と慶南太陽油田があり、先端航空産業と誘致産業が盛ん。海洋と大陸性気候が混ざった温暖な気候で、水産業と農業が活発。人口はおよそ12万人。



同じ日に泗川市で開かれていた「航空宇宙博」を見学、飛行体験や宇宙空間体験を楽しんだ。



韓国の伝統的な遊び「チェギチャギ」。穴が空いた小銭に紙を巻いたものを落とさないように蹴る。



三成初等学校の友達だけでなく、一緒に韓国へ行った仲間とも友情を深めた貴重な3日間になった。



400年祭の交流を機に開かれた「九龍窯」でのやきもの体験、窯元の金南珍さんが手ほどきする。

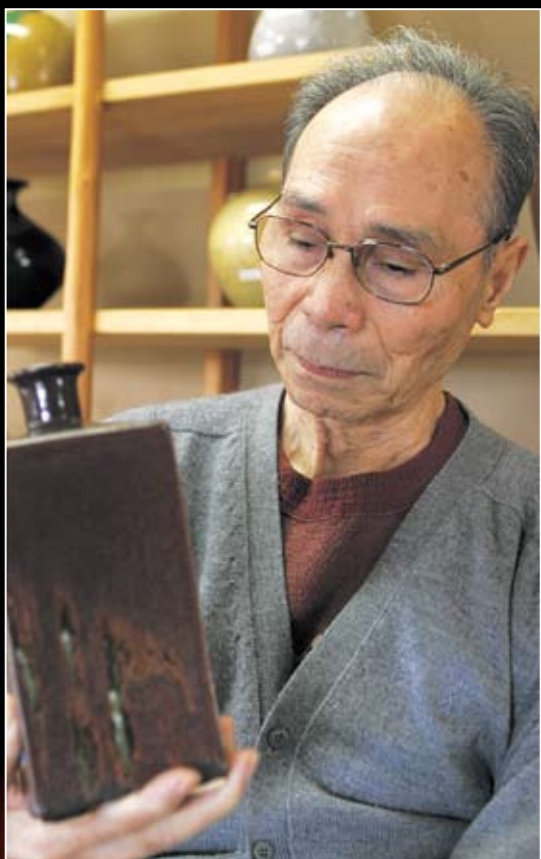


明るく笑顔で歓迎してくれた三成初等学校の子どもたち、みんな協調性が高く礼儀正しかった。



訪問前に計4回開いた事前研修会、金智淑さんを講師に迎え、ハングルや韓国の文化を学んだ。

Japan-Korea Exchange
 主催：赤池町青少年育成町民会議・赤池町教育委員会



受章の喜びをかみしめながら、60年の陶芸人生に思いをはせる高田湖山さん（本名・利明）。手にあるのは鉄釉の窯変花入れ。

瑞宝単光章・日本伝統工芸士会功労者表彰

高田湖山さん「高田窯」

「こんな勲章がもらえるとは……」
目に涙がにじんだ。11月22日、届けられた瑞宝単光章を前に、言葉が見つからなかった。上野焼作家としては初めての受章となった。

陶芸をはじめて60年、9年におよぶ下働きをしながら陶工の技を目で盗み、独学で釉薬（ゆうやく）づくりに励んだ。未明までくろを回し、ふがない自分で浜したこともあった。目指したのは伝統に基づいた自分だけの上野焼。御用窯としての誇りを忘れず、美を凝縮した茶器を求め続けた。薄づくり、多彩な釉薬、繊細で存在感ある造形……決して妥協しない姿勢が、ゆるぎない技術力となって高田さんに備わっていた。

「この模様を出せるのは世界で高田しかない」と外国の芸術評論家をうならせた「虫喰釉」。繊細で無数の黒い粒が包むように均等に浮かび上がる、大成するまでに30年かかったという高田さんが得意とする技法だ。故宮博物院賞をはじめとする数々の世界的な賞は、この「虫喰釉」が評価され、高田さんの受賞につながった。しかもその作品は偶然にできるのではなく、窯の中に置く作品の位置、火の力、温度や湿度といったあらゆる要素を計算しつくし、必然的に完成する。それだけに高田さんの窯焚きは真剣勝負、炎を見つめる表情はとてみ敵しい。

「一生のうちに数度だが、火の神様が降りてくることもある」。高田さんが宝にする茶入れは、金粉がちりばめられたように、きらきらと輝きを見せた。窯の炎によつてやきものの色が変化する「窯変」。地道な努力が作品に息吹を与え、結果となつて表れたご自身の作品だった。11月2日には日本伝統工芸士会功労者表彰も受けた高田さん。「まだまだ新しいイメージがたくさんあります。頭の中はやりたいたいことばかり、百歳まで作り続けたい」と燃えるような情熱で意気込みを語った。



「炎の力が作った」という奇跡の茶入れ、金粉をちりばめたような輝きを見せる。

細かい玉が浮かび上がり、均一にそろって連なる「虫喰釉」、高田さんの得意技法。



土と炎に挑み続けて

上野焼の作家としては初となる栄えある受章をはじめ、九州経済産業局表彰、福岡県表彰を受けた三人のみなさん。日ごろ陶芸に打ち込む姿を追って、インタビューしました。



11月3日に九州経済産業局長表彰を受けた青柳一夫さん。先代の父（故・翠峰氏）に師事し、昭和44年から陶芸活動をはじめた。

九州経済産業局長表彰

青柳一夫さん「青柳不老園」

「緑をどう生かすか、この釉薬を極めてみたい」。上野焼協同組合理事長に就任して7年間、現在まで強力なリーダーシップで上野焼を牽引し続ける青柳一夫さん。情熱と手腕で上野焼4百年祭をはじめとする催しや他産地との連携を成功に導いてきた。子どもたちの作陶体験にも積極的に小学校まで足を運び指導する。

「緑流し」「緑線」などで知られる緑釉は、上野焼を代表する色彩として有名。しかし、客の知名度と人気は高いが、展覧会などで緑釉の作品が入選することは極めて少ない。青柳さんは「一般的に上野焼と言えば緑青」という認識があるのはゆるぎない事実、だからあえて緑青に

挑戦する」と言い切る。代表的釉薬がすたれることは上野焼そのものの存在まで影響する。緑青の展開や可能性を探る姿勢には、一人の作家としてだけでなく、理事長としての強い責務を感じずにはいられない。



緑青を柳に見立てた柳文大皿

作家としては緑青、理事長としては「上野焼から下口を出したい」と目標を語る青柳さん、上野焼の中央進出も視野に入れている。組合代表者として多忙を極める中、瞬時に作家へシフトする生活を送る。福智山の深線にも似た緑青が、魔法のようにその手から生み出されていく。

「作

「りたいときに作りたいものをつくる」という高鶴智山さんの姿勢は、あくまで自然体。肩に力を入れず、勢いがよく、むだな動きがない。しかし、一見おおらかに見える動作も実に繊細。陶土を削って文様を刻む「描き落とし」も熟練した感覚があつてこそなせる技だ。先の丸いカシナがためらいなく成形した器に向けられると、ランヤツバキなどの草花がみえるうちに形を表していく。作陶において「特にこだわりはない」と笑う高鶴さんだが、道具のほとんどが手作り、もしくは改良されている。自分の意図を確実に作品へ反映させるため、手になじむように仕上げられているのだ。

そして、特に高鶴さんのこだわりを感じたのは陶土。細工物以外は上野の土しか使わない。釉薬との絶妙なバランスで趣を加える化粧土もいくつかの上野産の土をブレンドして作る。また、造形のアイデアも豊富で、「つまようじ立てがついたはし入れ」や「小皿の真ん中に小さな筒を付けた形の「輪挿し」など、ほかのやきもの産地がまねする人気商品も多数考案した。茶陶の枠にとらわれない、美しさと実用性を重視した高鶴さんの作品は、やさしいまなざしを映すように作り出されている。



繊細な彫りによる鉄釉香炉

福岡県優秀技能者表彰

高鶴智山さん「庚申窯」



11月24日に福岡県優秀技能者表彰を受けた高鶴智山さん（本名・智）。高鶴窯の初代・城山氏の子で二代目・夏山氏の弟。

観音堂の文化財指定を祝って

11月13日に興国寺で、県有形文化財の指定を祝う千手観音大祭が行われました。2月に町で4件目の文化財に指定された観音堂内で横山哲志住職の法要が行われ、女無法松の会と方城婦人太鼓の和太鼓演奏が境内で披露されました。町内外から参加した150人は、禅宗様式の簡素な美しさをもつ観音堂を大祭の後もしばらくながめていました。



町内の建造物で初めての文化財指定を受けた観音堂(左側)1719年建造。

姉妹でいもの大家族を引き抜きます。収穫の後は試食会を楽しみました。



待ちに待ったさつまいもお目見え

11月6日に上野のふれあい農園で、さつまいもの収穫が行われました。募集したオーナーが植え付けから収穫までを行うふれあい市主催の取り組みで、2年目の今年は117区画の応募がありました。植え付け作業から4か月後に収穫されたさつまいもは、長さ30cmに成長。家族連れのオーナーたちは、収穫したいもを満足そうに抱えていました。

サークルをめがけて投げるダーマは、底の重みで思ったよりよくとびます。



初めてのガラッキー体験

10月30日に田川郡社会体育振興協会主催のスポーツ・レクリエーションが金田町で行われました。郡内9町村から120人、町内から18人が参加、ニュースポーツのガラッキーを楽しみました。ガラッキーは1チーム3人がダーマと呼ばれる道具を6m先のサークルに投げて得点を競う競技で、参加者は初体験ながらも上手にポイントをとらえていました。

雨のステージに子どもたちの歓声

11月6日に町民会館前広場で商工会ふるさとフェアが行われました。雨天にもかかわらずおよそ2千人が会場を訪れ、30棟のテントで売られる食べ物や安売り商品などの買い物を楽しみました。特設ステージではコンサートやモチ投げが行われ、子ども向けのアトラクションでは、迫力の戦闘シーンに客席から歓声がわき起こっていました。



特設ステージの魔法戦隊マジレンジャーショー、子どもたちが必死に応援。

長野秀幸師範が持つ板に向かって気持ちを集め、こん身の力を込めて板を蹴り割る木村大介君。



一撃で倒す気迫に息をのむ

11月13日に中央研修所で町体協の少年空手部「空友会」の25周年記念演武会が行われました。太鼓の演奏に始まり、尺八や詩吟にあわせた個人型や息ピッタリの団体型など、会員55人による22演目が披露されました。特に実践形式で行う護身術や乱取りは、突きや蹴りの音が聞こえてくるほどの迫力でした。長野秀幸師範は「空手を通して青少年に人を思いやる気持ちを育てていきたい」と300人の観客の前で今後の抱負を語りました。

赤池ラビットが鉄壁ブロックで優勝

11月6日に福岡市で行われたスポーツフェスタ・ふくおかのソフトバレーボール大会で14支所主体の女性チーム赤池ラビットが見事優勝しました。県レベルのこの大会は地区大会を勝ち抜いたチームで競われ、赤池ラビットはレディースの部に出場。決勝で20代中心の古前クラブ(北九州市)の攻撃をブロックで防ぎ、2-0で優勝を飾りました。



粘り強さが自慢の赤池ラビット、九州大会準優勝の実績があります。

大きなコイの体長は80cm、泥に体をつかまれながら無心で捕まえました。



泥とコイがとびはねるつかみ捕り体験

11月3日に市場の飛石下池で7区オリオン子ども会のコイ捕り体験が行われました。子ども会が一年前に放流した50匹のコイは体長が倍以上に成長、大きいものは80cmありました。参加した30人の子どもたちはみんな泥で真っ黒、「はじめはコイがヌルヌルして気持ち悪かったけど、慣れたら楽しかった」と泥まみれの顔から白い歯をのぞかせました。



「さわってみるかい？」そば粉と小麦粉に水を加えて練りあげた「そば玉」のお手本に、元気なたくさんのお手本が伸びました。

自作の味は格別

10月30日に市場小学校で、学童クラブによる「そば打ち体験」が行われました。嘉穂町で手打ちそばの店を営むその道18年の進清治さんを講師に招き、25人の児童が参加しました。こね鉢でそば粉を練ることから初め、棒で25cm四方に伸ばした後、およそ5mm間隔にめんを切っていました。めん切り包丁を上手に使っていた男の子は「自分たちで打ったそばなので最高」と笑顔。自作のゆでたてのそばをおかわりして味わっていました。

正しいストレッチがケガを防ぐ

11月16日に筑豊地区の体育指導員を対象にした健康体操教室が町民会館で行われました。健康体操の指導者養成が目的で30人が参加。講師に県体育協会クラブ育成アドバイザーの内田実さんを招き、ケガを予防する正しいストレッチについて学びました。骨や筋肉の構造説明をしながらのていねいな実技指導で、健康体操の理解を深めました。



高齢者の腰の負担に配慮した、座ってできるストレッチも学びました。

シチメンソウ群生地、七面鳥のように変色することが名前の由来です。



有明海の自然に環境保護を再確認

ボランティア活動で河川敷を清掃している「ひこさんがわ夢の会」の55人が、11月13日に佐賀県有明海を視察しました。日本では有明海と大分県北部の海岸でしか見られないという「シチメンソウ」の自生地などを見学。分布の珍しい植物に触れ、河川美化や水質浄化、自然環境を守り続けることの重要性を再確認しました。

ずらり並んだ力作1400点

11月5日から2日間、町民会館で町民文化祭が行われました。福岡県指定文化財の東光寺経筒や国指定伝統的工芸品の上野焼をはじめ、写真・書・絵画など町内のアーティストによる約1400点の作品が所狭しと会場に並びました。恒例のお茶会やフラワーアレンジメント体験も盛況で、2400人の来場者は1点ずつじっくりと鑑賞していました。



恒例のお茶会で主客をもてなす小笠原古流の菊谷水月先生。

楽しみながら身近な人権学ぶ

11月15日に上野小学校で福岡県人権擁護委員会主催の人権教室が行われました。郡の人権擁護委員会が進行し、ビデオ上映の後、その内容のテーマである「いじめ」について児童と意見交換をしました。人権のイメージキャラクターも登場するなど、12月の赤池町人権旬間を前に119人の児童は、楽しみながら人権の大切さや尊さを学びました。



会場の入口を頭すれすれで通過した「人KENまもるくん」が登場。

敵も味方もなくお互いに声援をかけ、ボールの行方を見守ります。



打ったボールに笑顔を見せて

町体協主催の町民グラウンドゴルフ大会が11月20日に町民グラウンドで行われました。町内から16チーム、96人が参加。心地よい日差しの中、ホールインワンが6本するなど、16ホールでベテランの技術が光りました。熱戦の結果は次のとおりです。優勝/赤池NT、準優勝/5区・18支所混合チーム、3位/16・17支所混合チーム。

下関大会で一戦一戦、成長を遂げた赤池ベアーズのメンバー。



完封で決勝進出 ベアーズ堂々の銀

11月5日から2日間、山口県下関球場で開かれた横浜ベイスターズ杯争奪下関大会で、赤池ベアーズが準優勝に輝きました。福岡県と中国地方から26チームが出場し、赤池ベアーズは準決勝で強豪福岡スラッガーズを4対0に完封。決勝で総社ボーイズ(岡山)に2対0で惜敗しましたが、ベアーズの健闘に会場から惜みない拍手が送られました。

新町「福智町」の町章決まる

一般公募で寄せられた919点の応募の中から決定しました



決定した福智町の町章

「F」の躍動感が高評価

来年の3月6日に赤池町・金田町・方城町の3町が合併して誕生する「福智町」の町章が決まりました。町章は福智町の「F」をイメージし、福智山をデザインしたものの、澄みきつた青空の下、緑豊かな大地に心・技・体の風が吹き、人々を包み、守る形が表現されています。

町章のデザインは一般公募した919点の応募の中から、デザインコンサルタントと事務局が50点に絞りさらに各町3人で構成する選考委員会が候補5点を決め、最終的に町長・議長らで構成する選考委員会（渡久兵衛会長）が投票制で決定しました。新町の町章は、山梨県の平井順さん35歳の作品が選ばれました。



【候補1】活気あふれる町、未来に羽ばたき広がる福智町の「ふ」を表現。
 【候補2】福智町のアルファベットF・K・Cを人形にしてつないだ作品。
 【候補4】「ふ」をモチーフに、未来に向かって飛躍・発展する姿を表現。
 【候補5】真っ赤な太陽が「心」、緑の山々で「体」、青い清流で「技」を表現。

公共工事

問 役場総務課管財係 28-2004

検査員を総務課に配置しました

「赤池町が発注する公共工事の入札及び契約の適正化検討委員会」がまとめた報告書に基づき、10月19日から赤池町公共工事検査員を総務課に配置しています。

報告書では公共工事の竣工検査を委託も含めて検討するよう求めていましたが、外部委託では高額な費用がかかるため、町単独で専門職を配置。設計どおりの工事が行われていることの確認や材料の品質チェックを行います。公共工事検査員は、みなさんに広く使われる施設や道路などの品質と安全を確保し、住民の利益と公共の財産を守る役割を果たします。



現場で図面を確認する中山力検査員（右）、直方市役所で土木関係の技術職を長年務めたベテランです。確かな目で細部までチェックします。

愛の贈り物

「ありがとう」をいただきました
 赤池町社会福祉協議会
 10月17日、11月16日 順不同敬称略

【香典返し】
 八隅八千代（草場下組）
 故 佐藤益代

篠原三子（山崎）故 筆幸
 内田敏夫（車道）故 高見義子
 大井久幸（伏原団地）故 サチ子
 以上4件 7万円

【寄付】匿名2件 8千3百円
 山本眞由美 1千円
 上野焼協同組合 3万円
 【ふれあい基金】福祉バス内
 基金箱 4万9千734円
 【古切手】
 近藤佳月子 540枚

12月の福祉センター行事
 【心配ごと相談】
 7日水行政、人権相談

19日月生活、人権相談
 すべて10時30分～15時
 【介護保険相談】
 13日火 10時～16時
 【福祉バス】
 12月29日木から平成18年
 1月3日火まで年末年始運
 休。12月23日金から1月9
 日月までの冬休み期間中は
 日曜日と同じ運行時間とな
 りますので、お間違えのな
 いようお願いします。

【健康チェック室利用料】
 ヘルストロ（1回20分）50円
 低周波治療（1回20分）100円
 【生きたいデイサービス】
 今年も早いもので師走
 を迎えました。今月はデイ
 サービスと趣味の教室の日
 程に変更があります。なお、
 23日金は祭日のため22日木
 にデイサービスを行います。

今月の各教室の日程は次
 のとおりです。どうぞお気
 軽に参加ください。



問 赤池町社会福祉協議会
 （28）4646

ありがとうございました
 町立養護老人ホーム天郷荘
 【柿3.8kg・ゆず3.4kg】
 太田ナツコ
 【石けん30個・ぞうきん百枚】
 吉田陽子
 【みかん10kg】定善寺

11月例会	優勝	高瀬	俊恭	さん	桜NT
A	パート	優勝	池田	克彦	さん 上の原
B	パート	優勝	池田	克彦	さん 上の原
次回	12月例会	11日(日)	9:30-16:00		
					町民会館第三会議室 安田会長より

作句は自分を知る事のできる鏡のやうなもの

養命大学・隣保館句会

笹鳴や怪もこ、迄禁猟区
 人生の終の俳諧文化の日
 今年はもも筋伸ばして柿吊す
 今年ももも筋伸ばして柿吊す
 かいつぶり水面を滑ることもして
 居残って一人見送る紅葉狩
 まはるばの草の錦の中を行く
 赤い羽根つけて心の安らぎぬ
 柿落葉かさこそ話す通り風
 店頭の新書をめくる文化の日
 蓄立つ菊の黄色をのぞかせて
 立冬や福智の峰のくつきりと
 近づけばひとり遊びの小鳥かな
 露の身の呆けを封じに鎮国寺
 三匹の猫が破りし障子貼る
 しぐる、や行く先霞む一輛車
 文化祭人の技術に目を見張る
 露結ぶ山の句碑にもある孤独
 うそ寒や身の丈一寸低くなり
 団栗を踏めば追慕の音はじく

池田一步選

選者 吟
 末松トモ子
 熊谷カツミ
 有川 信子
 本多 ミチ
 吉田 弘
 皆川 和子
 久松ミサオ
 亀谷千恵子
 神田恵美子
 宇野八重子
 森 玲子
 寺内ノブエ
 丸山 鈴子
 安田 健一
 白石 幸子
 小場 妙子
 大久保幸子
 池田 駒女



■田川市■ 44-2000

○クリスマスパーティーinTAGAWA
 12月17日田 11時～14時30分
 参加費：大人／600円
 小学生以下／300円
 申し込み期限：12月5日金～15日金
 内容：外国のクリスマスの紹介やクリスマスソングの生演奏などを行います。
 （田川市民会館）

■金田町■ 22-0556

○えびすまつり（管原神社境内）
 12月2日土 17時～21時30分
 12月3日日 7時～11時

■方城町■ 22-0520

○ロマンティックX'masコンサート
 12月14日金 19時～
 前売り券：大人2000円
 中学生以下1000円
 （地域交流センター）

■香春町■ 32-2511

○香春町平成万葉の集い
 12月4日土 13時30分～
 内容：特選歌、入選歌表彰の表彰やチェロの独奏があります。
 （香春町民センター）

■川崎町■ 72-3000

○小さな森のコンサート（入場無料）
 12月10日土 18時30分～
 内容：クラシックコンサートやポップステージがあります。
 （役場一階ホール）

■赤村■ 62-3000

○大相撲・式部部屋がやってくる
 12月11日土 9時～12時
 内容：元小結大潮の式部親方が部屋力士を引き連れて、子ども相撲教室、ちゃんこ鍋やもちつきなどを行います。＊子ども相撲教室は、小学生以下申し込み可。
 問 赤村体育協会 ☎62-2790

■大任町■ 63-3000

○人権講演会「地底の仲間たち」
 12月5日土 13時30分～
 （大任町公民館）
 問 社会教育課 ☎63-2242

■添田町■ 82-1232

○三遊亭歌之介独演会（オークホール）
 12月22日金 18時30分～
 入場料：全席自由2000円

12月24日(土)
クリスマスコンサート
2005



入場無料
PM1:30 ~
赤池町役場ホール

オガワーズと青年二人組
のコラボレーション演奏を
お楽しみください!

【第一部】 バンド演奏
オガワーズ
ベンチャーズの「10番街の殺人」
「キャラバン」「バットマン」etc...
加山雄三の「蒼い星くず」
「ブラック・サンド・ビーチ」etc...
グループサウンズ...ザ・ワイルド・
ワウンズの「思い出の渚」etc...

【第2部】 バンド演奏
オガワーズ&青年二人組
2003年赤池町が制作したCD
「ウタガキ」「歌垣」から
「くらべっこ」「ねえ!ママ」「虫たちの
オリンピック」「さよなら」「夜明け赤池」

Ogawers
Member
オガワーズ
小川俊彦さん (Gu.)
吉田大作さん (Gu. Vo.)
松村重雄さん (B.)
吉田砂織さん (Kb. Vo.)
池田弘道さん (Dr.)
青年二人組
中脇力哉さん (Vo.)
池田一貴さん (Dr.)



「さげもの」とよばれる手芸品も人気でした。

10年ぶり草場文化祭

11月12日から2日間、10年ぶりの草場地区文化祭が集会所で行われました。地域から43の家庭が121点を出品、古代米の稲穂や歴代区長が受け継ぐ掛け軸など珍しい品も並びました。入口ではぜんざいも振る舞われ、107人の来場者は心も体も温まった様子でした。

私の主張大会
赤池町教育委員会社会教育課
町内の小中学生が日常生活で感じたことや体験したこと、口にする考えや意見を発表します。参加無料。
日時 12月17日(土) 10時
会場 赤池町同和对策中央研修所
問 赤池町教育委員会

農業用免税軽油発行事務
飯塚県税事務所
平成17年4月1日から福岡県の県税事務所が再編されたことにより、田川県税事務所でも農業用免税軽油の発行事務ができなくなりました。そのため、事前に申請書などを飯塚・直方県税事務所へ郵送をお願いします。
申し込み問い合わせ先
飯塚・直方県税事務所関係係
0948(23)4111

オリジナルカレンダー発売
平成筑豊鉄道株式会社
平成18年版沿線の四季折々の写真を取り交ぜたオリジナルカレンダーを発売しています。価格は1部500円、平成筑豊鉄道各駅窓口で販売します。(赤池町内では、お好み焼き美代店)なお、郵送販売も受け付けています。住所・氏名・電話番号を明記し、500円分の郵便為替・390円分の切手を同封のうえ、営業部カレンダー係まで郵送してください。
問 平成筑豊鉄道株式会社
(22)1000(金田町金田)

高齢者総合相談
福岡県社会福祉協議会
12月11日(日)
会場 総合保健施設コスモス
【講演】10時30分~12時
講師 福岡県弁護士会の弁護士
演題 「相談事例による法律問題」
【移動相談】13時~16時
法律相談を福岡県弁護士会の弁護士2人が無料でお受けします。一般相談、福祉サービス相談
問 福岡県社会福祉協議会
092(643)3273

10月の町内事件事故件数
田川警察署
自転車盗等 3件(前月比+3)
自販機荒し 0件(前月比1)
車上ねらい 1件(前月比±0)
空き巣 1件(前月比±0)
交通事故 6件(前月比±0)
うち負傷者 8人(前月比+2)

ギャラリー陶のイベント
上野焼陶芸館
「花器展」(上野焼伝統工芸士会)
期間 12月12日(日)まで
「新春の器展」(上野焼協同組合)
期間 12月14日(水)~1月9日(日)
営業時間 10時~17時
定休日 毎週火曜日
会場 上野焼陶芸館ギャラリー陶
問 上野焼陶芸館
(28)5864

貯金箱コンクール入賞
日本郵政公社の「私のアイデア貯金箱コンクール」で田中萌さん(市場小2)がシーソー形のユニークな貯金箱で九州支社長賞を受賞しました。また武末芽依さん(上野小3)が貯金事業部長賞を、田中祐樹さん(市場小6)と山上亜子さん(上野小2)が赤池郵便局長賞を受賞しました。



重さを比べられるシーソー型貯金箱と田中さん



水質調査に使われる道具説明では、調査方法のコツも学びました。

中学に農林高が出前授業

田川農林高校の生徒を招いた出前授業が11月25日に赤池中で行われました。農林土木科3年生の4人が、田川地区の水質調査とメダカの生育状況の研究内容をスライドを使って説明。「彦山川は汚れていると思いませんか」との質問に1年生112人の半数以上が手を挙げ、身近な川の水質への関心の高さを示しました。

工業統計調査
経済産業省・福岡県・赤池町
平成17年度工業統計調査を12月31日現在で行います。12月から1月にかけて調査員が伺いますのでご協力をお願いします。調査票
納税強調月間
赤池町
12月は赤池町の納税強調月間です。税金や使用料などの納め忘れはありませんか?
住民税、固定資産税、軽自動車税、国民健康保険税のほか、町営住宅使用料、住宅新築資金、水道使用料、汚水使用料、学校給食費など納め忘れのないようお願いいたします。

保育料の口座振替制度
保護者の利便性を考え、保育料の口座振替が平成18年1月納入分からできるようになりました。希望される場合は、保育所または役場にある申し込み用紙に必要事項を記入し、12月15日(木)までに役場住民課福祉係に通帳と通帳の届け印を持参して提出してください。詳しくはお問い合わせください。
問 役場住民課福祉係 内線112

技能試験の一部休止
県警察本部運転免許試験課
筑豊自動車運転免許試験場では技能試験コース改修に伴う技能試験などの一部を休止します。
休止期間 12月1日(木)
平成18年3月31日(金)
休止する技能試験
普通一種・二種、普通仮免許
大型・普通二輪、普通一種、大型・普通二輪の外国免許から日本免許への切り替え時の技能確認
自動車安全運転実技講習
詳しくはお問い合わせください。
問 筑豊自動車運転免許試験場
0948(82)0160

笑って歌って踊った天郷荘敬老会
10月27日に町立養護老人ホーム天郷荘で敬老会が行われました。入荘者26人は、歌や踊り、身近な人をモデルにした福笑い百面相など9演目を楽しみました。
職員による踊りが雰囲気盛り上げます



職員による踊りが雰囲気盛り上げます

育てた菊の苗を市場小3年が寄贈
市場小3年生が育てた菊の苗24鉢を町内4か所の施設や店舗に寄贈しました。5月から大切に育てた菊は、白・赤・ピンク・黄色のかわいい花を咲かせていました。
11月16日に浦田町長へ手渡す児童たち



11月16日に浦田町長へ手渡す児童たち

情報ひろば

● 役場 ☎2822004 ● 教育委員会 ☎2841000 ● 診療所 ☎2820883 ● 保健福祉センター ☎2895000

Happy Birthday

12月生まれ☆お誕生日おめでとう！

発行月にお誕生日を迎える3歳までの子を募集します。掲載は先着順3人まで。申し込み期限は発行前月の15日です。掲載のご予約は、お気軽に！お早めに！

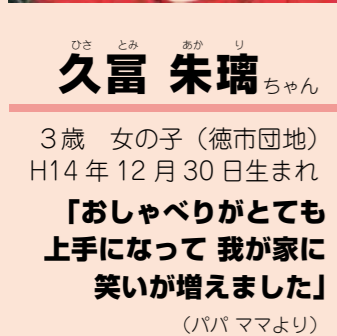


しん ばら ゆう た
新原 雄太くん

3歳 男の子(草場下組)
H14年12月21日生まれ

「泣き虫だけどやさしい
ゆうちゃん、ゆうたは
我が家の宝物だよ♡」

(パパ、ママより)



ひさ とみ あか り
久富 朱璃ちゃん

3歳 女の子(徳市団地)
H14年12月30日生まれ

「おしゃべりがとても
上手になって 我が家に
笑いが増えました」

(パパママより)



▼「健診さえ受けていけば、また会えたかも知れない」。空へと旅だった大切な人のことを思うと、やり場のない感情が込み上げてきます。たとえ遠く離れていても、生きてさえいればまた会えます。大切な人の「存在」は、生きていくうえでかけがえのないもの。先送りして、手遅れになってからでは遅いのです。目を背けないで、勇気を出して健診を受けてください。(長野)

▼役場に入ってはじめて健診を受けました。普段は「自分は健康だけがとりえ」と自負していますが、かくれた病気が健診のようないきなり見つかりました。心配性の母は「健診で病気が見つかるのが怖い」となかなか受診しませんが、今回の特集を機に、母に健診を勧めたいと思います。(未永)



編集後記

12/15~1/15

保健の掲示板

- ◆ **12月16日** 金 【ポリオ】
 - ※ 多目的ルーム／受付：13:30～14:20
生後3か月～18か月児を対象
 - ◆ **12月19日** 月 【乳児相談】
 - ※ 多目的ルーム／受付：13:30～14:30
生後3か月～12か月児を対象(身体計測・相談など)
 - ◆ **12月20日** 火 【笑べっこくらぶ～オープンルーム】
 - ※ わいわいルーム／受付：10:30～11:30
就園前の乳幼児と保護者を対象(絵本の読み聞かせ)
 - ◆ **12月21日** 水 【住民健康相談】
 - ※ 会議室／受付：9:00～12:00
健康や介護で相談のある人を対象、動脈硬化測定(要予約)
 - ◆ **12月26日** 月 【母子手帳交付制度説明会】
 - ※ 多目的ルーム／受付：13:00～13:30
妊婦さん(パパもどうぞ)を対象
 - ◆ **1月11日** 火 【健診結果説明会】
 - ※ 多目的ルーム／受付：13:30～15:00
11月16日～12月15日の間に健診を受けた人を対象
 - ◆ **1月12日** 水 【親子であそぼ教室】
 - ※ 多目的ルーム／受付：10:00～11:30
就園前の乳幼児と保護者を対象
 - ◆ **1月12日** 水 【三種混合】
 - ※ 多目的ルーム／受付：13:30～14:20
生後3か月～12か月児を対象
 - ◆ **1月13日** 木 【BCG】
 - ※ 多目的ルーム／受付：13:30～14:20
生後3か月～6か月未満児を対象
- ※ マークは「コスモス保健福祉センター」内の会場です。
※ 三種混合は90か月まで接種できます。
☎ コスモス保健福祉センター保健課健康づくり係 ☎ 28-9500

📌 **年末年始の救急医療** ※ 保険証をお忘れなく
田川地区休日救急医療センター ☎ 45-7199
診療日 12月31日 日・1月1日 日・2日 月・3日 火の4日間
受付時間・診療科目

【内科・小児科】9:00～11:30
13:00～16:30 / 18:00～22:30
【外科】9:00～11:30 / 13:00～16:30



📌 **年末年始のゴミ収集**

- ・12月30日 日～1月3日 火はお休みです。
- ・1月3日 火が収集地区の燃えるゴミ収集は、1月4日 水に変更
- ・1月4日 水が収集地区の資源ゴミ(緑)収集は、1月7日 土に変更

📌 **年末年始のし尿処理**

額田環境開発 ☎ 28-3377 12月31日 日～1月3日 火は休業
筑豊衛生環境 ☎ 22-1054 12月29日 日～1月4日 火は休業
吉田環境整備 ☎ 22-0221 12月30日 日～1月4日 火は休業

診療所になったら高くなった？

医療費の疑問に お答えします。

「町立病院からコスモス診療所が変わったら、医療費が高くなった」という声を聞きました。また「どこの医療機関にかかっても同じ保険診療であれば、かかる費用も同じ」と思っている人が多いと思います。そこで、みなさんの疑問にお答えします。

医療機関の規模で格差

外来の医療費は、病院や診療所といった施設の規模などで異なり、場合によっては何倍もの差がつくこともあります。外来の医療費は、おおまかに「診療基本料」「指導管理料」「検査・治療料」「薬代」を積み上げて計算します。再診の患者の場合、診てもらった時に必ずかかる「再診料」が診療基本料にあたります。これは200床以上の大病院が最も安く、診療所が最も高くなっています。

例えば「初診料」一つとっても診療所は2,740円(自己負担分3割として822円)、病院では2,550円(自己負担分3割として765円)となり、診療所として比較すると190円病院の方がやや安くなっています。しかし、大病院では診療所や病院の紹介状がないと「初診時特定療養費」という追加料金を求められるこ

とがあります。この追加料金は200床以上の病院が設定でき、患者から徴収する料金は病院によって異なります。

機能分化による報酬差

厚生労働省が同じ診療行為や処方でも医療機関によって診療報酬に差をつけているのは、外来患者を診療所や小さな病院に誘導し、大病院は入院医療に集中させるという機能分化を促進しているためです。医療費の自己負担が3割になり、患者が医療機関を選ぶときは、費用だけでなく、症状の緊急度や診療の質などと合わせて総合的に判断をしていただくこととなります。

以上、おおまかに説明しましたが、詳しくはコスモス診療所 28-2083までお問い合わせください。



変異している インフルエンザ ウイルス

【新型インフルエンザって何ですか】

インフルエンザは、人だけでなく、他の動物も感染します。通常、例えば人から人へといった同種の間で感染するものですが、インフルエンザウイルスの性質が変わる(変異することによって、これまでに、人に感染しなかったインフルエンザウイルスが、人へ感染するようになり、そしてさらに人から人へ感染するようになります。この変

異したウイルスによって起こるインフルエンザを新型インフルエンザといいます。

【予防はどうしたらいいですか】

通常のインフルエンザは、感染した人のせきやくしゃみで放出されたウイルスを吸うことによって感染します。そのため、外出後のうがいや手洗い、マスクの着用、流行地への渡航、人混みや繁華街への外出を控えることが重要です。

